

TKS report vol.25

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

第113期年次報告書

2018年3月1日～2019年2月28日

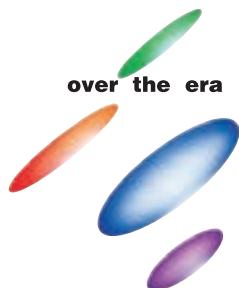
株式会社 **東京衡機**

TOKYO KOKI CO. LTD.

【東証2部上場（証券コード7719）】



トッピメッセージ/企業理念



代表取締役社長
竹中 洋

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第113期（2018年3月1日～2019年2月28日）のわが国経済は、米中貿易摩擦のおおりで弱含んだ世界経済の影響を受けて力強さの欠ける展開となり、中国向け輸出は年度初めから軟調で、年度後半には大幅な前年割れとなりました。そうした中、当社グループの事業に関する設備投資は、企業や公共機関の設備の老朽化等を背景に堅調に推移し、個人消費も雇用状況の改善を受けて総じて底堅い動きとなりました。

このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、各種材料の評価試験、動力・性能試験、環境試験等の各分野における業界トップレベルの品揃えを強みに、開発・設計・生産からメンテナンス・校正まで、技術と実績に裏付けられたワンストップソリューションを提供することにより、自動車、鉄鋼、鉄道、産業機器等のメーカーや各種研究機関、学校、官公庁など幅広いユーザーからご支持をいただくことができました。

エンジニアリング事業では、特許を有するゆるみ止め製品のインフラマーケットへの浸透と市場シェア拡大に努めて、着実に売上高の増加につながってきております。一般消費者向けの生活関連商品は、主に訪日

観光客のインバウンド需要の動きに影響され、アイテムごとに差はあるものの、総じて販売拡大の傾向を維持しながら展開してまいりました。

海外事業では、中国子会社の無錫三和塑料製品有限公司の業績改善とガバナンス改善を図るべく、経営陣の刷新を行いました。昨年6月には無錫市政府による事業用地取用があり工場移転を行いました。それを機に生産の基本である工場内の5S再整備を実施しました。同社のガバナンス強化については、日本からの支援だけでなく外部コンサルタントも導入して、現地経営幹部の意識改善を図ると同時に、業務実態に即して内部統制体制の見直しを行いました。その結果、会社業績と企業風土両面で改善が進んでおります。

当期の業績につきましては、売上高は試験機事業とエンジニアリング事業で前期よりも大幅に増加し、海外事業は未だ改善途上ではありますが、グループ全体の営業利益は大きく改善して黒字に転換いたしました。

当社といたしましては、今後も皆様の信頼とご期待にお応えできるよう、創業当初の「モノづくり」の原点を大切に、主力事業である試験機事業とエンジニアリング事業を中心として、海外事業の建直しと新規事業への取組みにより、グループの事業拡大を図り、更なる発展を目指す所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

contents

トッピメッセージ/企業理念	1
決算ハイライト	2
事業内容	3
事業の概況	4
連結財務諸表（概要）	5
トピックス	7
特集 「緩み止め付きインサート」 のご紹介	9
株式情報/会社概要/役員等	10

TKS
TOKYO KOKI

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を
尊重する”とともに、やさしさと
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、
地域からも“信頼される
企業市民”であり続けます。

決算ハイライト

第113期 (2018年3月1日～2019年2月28日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	5,379百万円 (前年同期比 +18.8%)	437百万円 (前年同期比 +34.2%)
営業利益	287百万円 (前年同期は △306百万円)	85百万円 (前年同期は △5百万円)
経常利益	282百万円 (前年同期は △343百万円)	73百万円 (前年同期は △14百万円)
親会社株主に帰属する 当期純利益	542百万円 (前年同期は △404百万円)	131百万円 (前年同期は △990百万円)
1株当たり当期純利益	76円08銭	18円51銭

※△は損失を示しております。

当連結会計年度は、試験機事業では、既存製品の高性能化・高機能化等のブラッシュアップや、受注生産製品・パーツの標準化の推進、個別製品原価管理の徹底による原価低減等を継続して収益基盤の強化を図ってまいりました。その結果、取引先の前年度から引き続き旺盛な設備投資の動きを受け、近年では最高水準の売上高と営業利益を達成することができました。また、受注高につきましては、管理体制と営業方針の変更により販売活動の活性化に取り組んだ結果、引き続き堅調に推移いたしました。

エンジニアリング事業では、ゆるみ止めナット・スプリングについては、高速道路関係や電力関係等の社会インフラ向けの拡販を図ってきた成果が出て、売上高は対前年度比で大きく伸ばすことが出来ました。また、訪日客をターゲットにした量販店向け商品（ステンレスボトルおよび軽量スーツケース）は昨年半ばの大阪北部地震や西日本豪雨等により中国人観光客の足が止まり影響を受けましたが、新たなビジネスを展開することで販売拡大に努め、売上高・営業利益ともに前年度を上回ることができました。

海外事業では、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売の拡大を図っておりますが、一昨年に発覚した中国子会社の元役員による不正事件に対するお客様からの信頼回復に時間を要したことなどから、当年度に入っても事業全体にマイナスの影響が残りました。加えて、中国子会社の工場移転の際の工事遅れ等による顧客への製品納入遅延が発生したことも影響し、売上高は前年度並に止まり、伸び悩みました。プラスチック成型品の生産につきましては、新工場の本格稼働後は順調に推移しております。また、中国子会社の工場取用に伴う補償金を特別利益に計上するとともに、同工場の移転関連費用等を特別損失に計上いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の連結業績は上記のとおりとなりました。

業績のポイント

- ①試験機事業は、旺盛な設備投資の動きを受け、過去最高水準の売上高・営業利益を達成
- ②エンジニアリング事業は、ゆるみ止め製品のインフラ向けの拡販の成果が表れ、売上高の増加に貢献
- ③中国子会社は、不正事件からの建直しに時間を要し、売上高は前年度並に止まる
- ④中国子会社の工場の取用・移転に関して特別利益および特別損失を計上

■ 業績の見通し (2019年4月19日の決算発表時点)

第114期 (2019年3月1日～2020年2月29日)

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
連結業績	第2四半期 (累計)	3,000百万円	150百万円	140百万円	100百万円
	通期	6,000百万円	250百万円	230百万円	170百万円

※個別業績予想の公表は行っておりません。

事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

試験機事業

試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで高度な技術力によりワンストップソリューションを提供しており、産業界や各種研究機関から広くご愛顧をいただいております。



試験機事業

海外事業

海外事業

中国子会社の樹脂成型技術を活かして、オフィス家具部品や自動車関連部品、家電関連部品等のプラスチック成型品の製造販売を行っています。



TKS
TOKYO KOKI

Technology and Knowledge ENRICH SOCIETY

エンジニアリング事業

エンジニアリング事業

画期的なアイデアと独自の技術で開発したゆるみ止めナットとナットの脱落を防止するゆるみ止めスプリングの製造販売（締結具事業）とともに、一般消費者向け商品の卸販売等（民生事業）を行っています。



アジア地域における拠点

MONGOLIA

CHINA

NORTH KOREA

SOUTH KOREA

JAPAN

無錫三和塑料製品有限公司

東京衡機試験機豊橋工場

東京衡機試験機相模原工場

東京衡機試験機サービス

東京衡機エンジニアリング

TKS 東京衡機

事業拠点



相模原工場

本店

〒101-0025

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル



豊橋工場

国内子会社

株式会社東京衡機試験機

- 本店
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル
- 相模原工場・東京支店
神奈川県相模原市緑区三井315番地
- 豊橋工場・中部支店
愛知県豊橋市北島町字北島202番地
- 大阪支店
大阪市淀川区西中島五丁目12番8号 新大阪ローズビル7階

株式会社東京衡機試験機サービス

- 本社
神奈川県相模原市緑区三井315番地
 - 西日本営業所
大阪府大阪市淀川区西中島七丁目8番17号 花原第五ビル8階
- #### 株式会社東京衡機エンジニアリング
- 本社
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

海外子会社

- 無錫三和塑料製品有限公司（中国江蘇省無錫市）
- 無錫特可思衡機貿易有限公司（中国江蘇省無錫市）
- ※無錫特可思電器製造有限公司から社名変更

事業の概況

当社グループは、2017年度から「再生のステージから、新たな企業創生へのチャレンジ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

試験機事業

産業の基盤技術として、存在感のある試験機事業会社を目指す。

エンジニアリング事業

顧客満足と社会の発展に貢献する企業を目指す。

海外事業

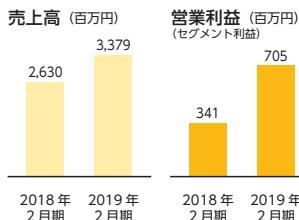
生産能力拡張により上海江蘇地域で業界No.1を目指す。

TESTING MACHINE BUSINESS

試験機事業

売上高 3,379百万円

営業利益 (セグメント利益) 705百万円



当期は、顧客の設備投資が引き続き堅調で、既存製品の高性能化等のブラッシュアップや受注生産品の標準化の推進、個別製品原価管理の徹底による原価低減等により収益基盤の強化を図り、売上高・利益ともに前期を上回る金額を達成することができ、受注高も営業体制を見直し販売活動の活性化に取り組んだ結果、順調に推移いたしました。今後は、新たな価値創出を目指して製品・技術開発にも注力し、海外市場への展開によるマーケット拡大とブランド力の向上も図ってまいります。

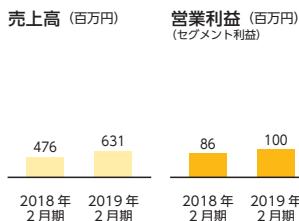


Engineering BUSINESS

エンジニアリング事業

売上高 631百万円

営業利益 (セグメント利益) 100百万円



当期は、ゆるみ止め製品については、高速道路関係や電力関係等に向けて継続してきた拡販活動の成果が出て、売上高は前期に比べ大きく伸長し、訪日客をターゲットにした量販店向け商品については昨年半ばの地震や豪雨により客足が減少して影響を受けましたが、新たなビジネスを展開することで販売拡大に努め、売上高・営業利益ともに前期を大きく上回りました。今後もゆるみ止め製品について特許を有する強みを最大限に発揮して、インフラ事業ニーズへの参入を強化いたします。

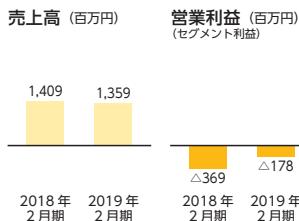


Overseas BUSINESS

海外事業

売上高 1,359百万円

営業利益 (セグメント利益) △178百万円



当期は、オフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売の拡大を図りましたが、一昨年に発覚した中国子会社での不正事件からの建直しに時間を要するとともに、工場移転の際の顧客への製品納入遅延等が影響し、売上高は前期並に止まりました。中国子会社では、早期の黒字転換を目指して、5S活動の再実施、購買管理改善等を実施し、新工場の本格稼働後は順調に推移しており、今後は、日系企業のサプライチェーンを軸とした新たな案件の獲得に向け、営業対応を強化いたします。



※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。
※△は損失を示しております。

連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

連結貸借対照表

科目	前連結会計年度末 2018年2月28日現在	当連結会計年度末 2019年2月28日現在
資産の部		
流動資産	2,949	3,193
現金及び預金 1	450	660
受取手形及び売掛金 2	1,330	1,464
たな卸資産	1,018	925
繰延税金資産	5	48
その他	261	206
貸倒引当金	△ 117	△ 111
固定資産	1,103	1,164
有形固定資産 3	979	1,070
無形固定資産	14	3
繰延税金資産	49	48
投資その他	265	233
貸倒引当金	△ 205	△ 192
資産合計	4,052	4,358
負債の部		
流動負債	2,299	2,075
固定負債	856	847
負債合計 4	3,155	2,923
純資産の部		
株主資本 5	522	1,065
その他の包括利益累計額	374	369
純資産合計	896	1,434
負債純資産合計	4,052	4,358

Point1 現金及び預金

長期借入金の借入等の資金調達を適宜行っており、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の建直しに係る資金需要があったものの、前連結会計年度末に比べ2億9百万円増加しております。

Point2 受取手形及び売掛金

主に試験機事業の売上高の増加により、前連結会計年度末に比べ1億34百万円増加しております。

Point3 有形固定資産

中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用移転に伴う資産除却があったものの、新たな工場建屋や機械設備等の取得により前連結会計年度末に比べ91百万円増加しております。

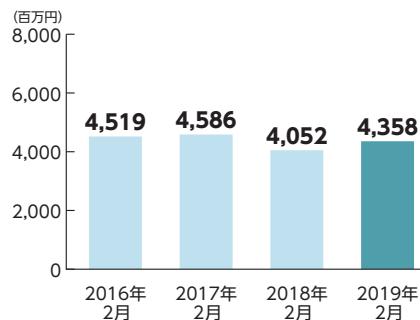
Point4 負債合計

主に買掛債務の減少により前連結会計年度末に比べ2億32百万円減少しております。

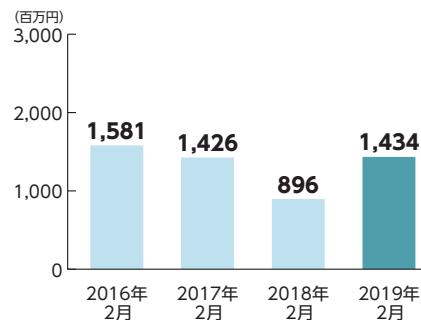
Point5 株主資本

親会社株主に帰属する当期純利益の計上により前連結会計年度末に比べ5億42百万円増加しております。

総資産



純資産



1株当たり純資産



※2018年9月1日付の株式併合に伴い、2016年度期首に株式併合が行われたと仮定して算定しております。

連結損益計算書

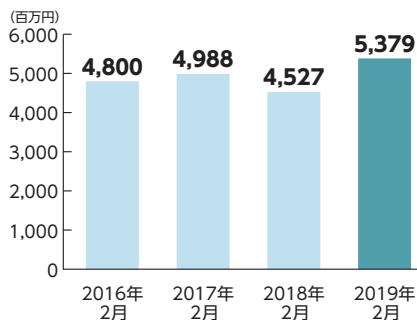
科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2017年3月1日～2018年2月28日	2018年3月1日～2019年2月28日
売上高 6	4,527	5,379
売上原価	3,451	3,922
売上総利益 7	1,075	1,457
販売費及び一般管理費 8	1,382	1,170
営業利益	△ 306	287
営業外収益	10	28
営業外費用	46	33
経常利益	△ 343	282
特別利益 9	299	466
特別損失 10	330	143
税金等調整前当期純利益	△ 374	605
法人税等	29	62
当期純利益	△ 404	542
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 404	542

※△は損失を示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

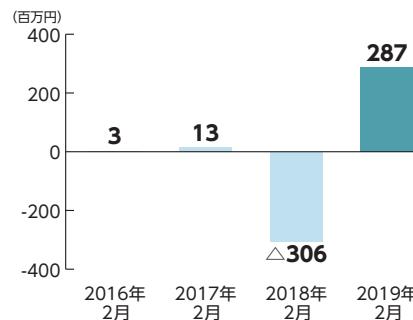
科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2017年3月1日～2018年2月28日	2018年3月1日～2019年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 354	448
投資活動によるキャッシュ・フロー	105	△ 218
財務活動によるキャッシュ・フロー	12	△ 47
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△ 4
現金及び現金同等物の増加額又は減少額 (△)	△ 232	178
現金及び現金同等物の期首残高	672	439
現金及び現金同等物の期末残高	439	618

売上高

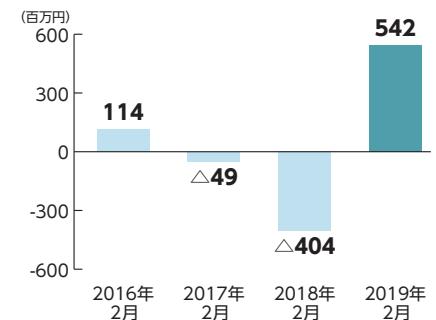


※△は損失を示しております。

営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



Point6 売上高

売上高は前連結会計年度に比べ8億52百万円増加しております。セグメント別では試験機事業は7億48百万円、エンジニアリング事業は1億55百万円増加したものの、海外事業は50百万円減少いたしました。なお、試験機事業で売上高が大きく増加した要因は、前期に売上を予定していた大型案件の当期へのずれ込みと標準的な材料試験機の販売が好調であったことによるものです。

Point7 売上総利益

売上総利益は、売上高の増加を主因に前連結会計年度に比べ3億81百万円増加しております。売上総利益率は3.3ポイント改善し、27.1%となっております。

Point8 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の事業再構築に伴う諸経費の削減を主因に前連結会計年度に比べ2億12百万円減少しております。

Point9 特別利益

当連結会計年度は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う補償金4億53百万円などを特別利益に計上しております。

Point10 特別損失

当連結会計年度は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の移転に係る費用1億5百万円や同社の元従業員との労働関係訴訟等に伴う損失見込額30百万円などを特別損失に計上しております。

トピックス

電気リニア疲労試験機 (ELA) の納入について

試験機事業の2018年度のトピックスとして、(株)東京衡機試験機の電気リニア疲労試験機 (ELA) の納入が顕著に増加したことが挙げられます。主な納品先は機能性部品メーカーや自動車内装部品メーカーで、1社に複数台導入できたことが底上げにつながっています。

電気リニア疲労試験機 (ELA) の特長としては、油圧式疲労試験機と違い油圧源装置や油圧配管が必要ないため、据付が容易なことが挙げられます。また、試験機の運転に作動油や冷却水を必要としないため、油圧式疲労試験機と比べて設備導入のコストやランニングコストを縮減することができます。

電気リニア疲労試験機 (ELA) には、フレームタイプとトラニオンタイプがあり、各種素材や構造材料の疲労特性評価を行うことができます。特に、トラニオンタイプはスタンドにアクチュエータを固定することにより、アクチュエータの姿勢の自由度が高くなり、多様な用途に合わせて試験角度を変更することができます。

私たちは、これからもお客様の様々なニーズに応え、信頼される試験機をご提供することで安心・安全で豊かな社会の実現に貢献してまいります。

Fine Puls

「Fine Puls」は(株)東京衡機試験機の疲労試験機のブランド名です。



アクチュエータ本体



フレームタイプ電気リニア疲労試験機



トラニオンタイプ電気リニア疲労試験機

第3回TKM会（代理店会）総会の開催

㈱東京衡機試験機では、2019年4月22日（月）にホテルメルパルク東京にて第3回TKM会総会を開催いたしました。

このTKM会は、当社グループの試験機事業部門の営業活動にご協力いただける19社の会員企業が当社グループとの連携を密にして㈱東京衡機試験機の相模原工場および豊橋工場の製品を拡販していくことを目的に設置された代理店会で、北海道から九州まで全国各地からご参集いただきました。

第一部のプログラムでは、TKM会の会長挨拶に続き、事務局から2018年度の活動内容や会計などについて報告し、承認されました。㈱東京衡機試験機からは、営業本部長より、「2019年の材料試験機は！」と題して、今年度の取組みのエッセンスについて報告を行いました。その中で、①科研費の増額予算が発表されたことから大学や研究機関に対する入札案件に注目が必要なこと、②生産性向上特別措置法の活用方法の紹介、③社会問題化するデータ改ざん防止に向けた取組みについて、④試験機の健全性・校正の必要性、⑤JIS改正に呼応したシャルピー試験機の校正対応などについて、具体的な取組み手順などを報告し、参加された会員企業からも熱心なご質問をいただくなど、有意義な総会となりました。

第二部では、社長も交えた懇親会を実施し、2019年度の目標達成に向けて決意を新たにいたしました。





このたび、当社グループ子会社の(株)東京衡機エンジニアリングで新製品「緩み止め付きインサート」の製造・販売を開始いたしました。

この製品は、緩み止め機能を付加したインサート（建築物や構造物、機器等に埋め込まれる雌ねじ）で、例えば、ビルの建築において、躯体コンクリートにこの製品を埋設して、それにボルトを締結することで金物や仕上げ建材を取り付けることが可能となります。従来の工法でもインサートとしてナットを埋設する工法は広く使用されてきましたが、これまでは緩み止め機能を有するインサートが無かったため、工事現場からの要望で新たに考案し製品化したものであります。

(株)東京衡機エンジニアリングでは、4年前から緩み止めナット「スマートハイパーロードナット」を製造・販売しており、様々なお客様からご好評をいただいておりますが、今回開発した「緩み止め付きインサート」のナット部には、この「スマートハイパーロードナット」を溶接して一体化することで、ボルト・ナットが緩む原因である強い振動に対し、有効な緩み止め効果を発揮する仕組みとなっております。近年、ビルの建築において緩み止め機能を有するナットが採用される箇所は多くなっており、今回開発した「緩み止め付きインサート」の活用が見込まれる場としては、コンクリート面にボルトで留めつける看板、サッシ、照明器具、各種建材金物など多岐にわたると考えられます。この製品は、既に複数の現場で使用していただいております。今後も活用される場は増えていくと見込んでおります。



株式情報 (2019年2月28日現在)

● 株式の概況

発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数*	7,133,791株
株主数	3,151名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式2,844株を含みます。

※2018年9月1日付で、単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、当社普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401百株	30.01%
竹中 洋	3,555百株	4.98%
株式会社AIIN	2,488百株	3.48%
佐藤 充弘	1,793百株	2.51%
何 積橋	1,672百株	2.34%
岡崎 由雄	1,050百株	1.47%
石井 照義	900百株	1.26%
宝天大同	504百株	0.70%
池上 道弘	466百株	0.65%
日本証券金融株式会社	444百株	0.62%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(2,844株)を控除しております。

● 株式の分布状況



● 事業法人等	24,791百株	34.75%	● 1単元未満	154名	4.89%
● 個人・その他	44,186百株	61.94%	● 1単元以上	1,760名	55.85%
● 金融機関	674百株	0.94%	● 5単元以上	441名	14.00%
● 証券会社	1,096百株	1.54%	● 10単元以上	608名	19.30%
● 外国法人等	559百株	0.79%	● 50単元以上	99名	3.14%
● 自己名義株式	28百株	0.04%	● 100単元以上	89名	2.82%
合計	71,337百株	100%	合計	3,151名	100%

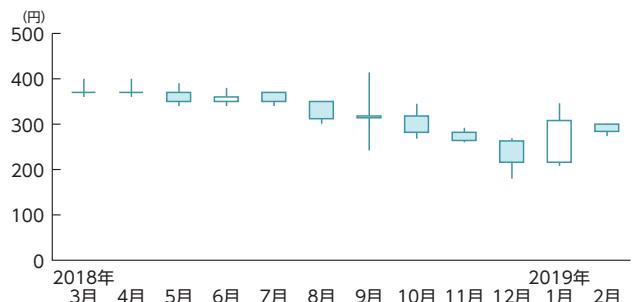
会社概要 (2019年2月28日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	14名(連結350名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行 ・グループ子会社の統括管理およびサポート ・商事業業
	【グループの事業内容】
	<ul style="list-style-type: none"> ・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス ・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス ・一般消費者向け商品の販売、各種サービス

役員等 (2019年5月29日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
取締役 試験機事業担当	上野 正男
取締役 エンジニアリング事業担当	平田 真一郎
取締役 管理本部長	石見 紀生
取締役(社外取締役)	石渡 隆生
取締役(社外取締役)	仮屋 浩一
取締役(社外取締役)	藤田 泰三
常勤監査役	鶴見 孝
監査役(社外監査役、弁護士)	水川 聡
監査役(社外監査役)	玉虫 俊夫
監査役(社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
会計監査人	アスカ監査法人

● 株価の推移



※2018年9月1日付で当社普通株式10株を1株の割合で株式併合を行っているため、上記期間の初めに株式併合が行われたと仮定して記載しております。

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載 URL http://www.tksnet.co.jp) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はこちらからご覧いただけます。



ロゴマークについて

“技術力”“獨創性”“人”“伝統”全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を“光のイメージ”に展開しています。

青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 **東京衡機**
TOKYO KOKI CO. LTD.



〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-1802